



総合戦略の施策と重要業績評価指標（KPI）
（2015年度～2019年度）
【見直し】

日 時：平成29年3月29日（水）午後6時～
場 所：サン・オリーブ多目的ホール

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

I 健康づくり

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
食育の推進	栄養バランスのとれた食生活の推進	毎日野菜を食べる人の割合（アンケート結果より） H26：68% → H31：80%
	オリーブを活かした健康づくりの推進	オリーブオイルを使っている人の割合（アンケート結果より） H26：80% → H31：90%
特別養護老人ホームと介護老人保健施設の整備	施設介護の充実と在宅生活支援につながる地域との連携を強化する。	平成28年度開設 →平成29年6月開設（特別養護老人ホーム60床、介護老人保健施設28床）
健康増進の取組推進	健康づくり教室の開催	健康づくり教室（運動・栄養等）開催回数 H26：56回/年 → H31：100回/年
	成人向け運動教室の実施 町営の体育館・プールを活用して、気軽に運動に取り組むことのできる機会や、継続的に自宅等で実施できるプログラムの提供を通じて、成人の健康増進を図る。	「貯筋運動」をはじめとする各種教室の実施 参加者数 H27：85人→H28：93人 → H31：120人
健康増進の取組推進 要介護認定者の増加の抑制	オリーブヘルスケアシステムの活用・普及	オリーブヘルスケア利用者数（5年間） 65歳未満 H26：0人 → H31：20人 65歳以上 H26：80人 → H31：120人 運動習慣のある人の割合 H26：38% →H31：45%
要介護認定者の増加の抑制	介護予防運動教室の開催による介護予防の推進	介護予防運動教室年間参加者数 H26：150人 →H31：200人
	サロン活動の取り組み推進	サロン活動取り組み箇所数 H26：26カ所 →H31：35カ所
	オリーブ健康塾の開催による介護予防リーダーの育成	オリーブ健康塾開催回数 H26：3回/年 →H31：4回/年

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

I 健康づくり

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)																					
「地域包括ケア」構築のための 介護人材の量と質の確保	介護予防ボランティアの養成・活動支援	介護予防ボランティア登録者数 H26：220名 → H31:350名																					
	介護職員の初任者研修、 介護福祉士実務者研修 に対する助成、 介護職員初任者研修を島内において開催	介護職員初任者研修助成件数：5件/年 介護福祉士実務者研修助成件数:3件/年 介護職員初任者研修開催事業島内実施 年1回(土庄町合同)20人/年																					
	ICTを活用した状態把握システムを介護現場に導入	先行事例を地元事業者へ適用し、評価指標モデルを構築 実施事業者：1事業者(2年間)																					
健康管理の推進	がん検診受診率の向上 ①未受診者アップ事業の実施 ②日曜健診、セット検診の実施 ③無料がん検診の実施	<table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">H25</td> <td style="text-align: center;">H31</td> </tr> <tr> <td>がん検診受診率の向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・胃がん</td> <td></td> <td style="text-align: right;">→ 10%</td> </tr> <tr> <td>・大腸がん</td> <td style="text-align: right;">22%</td> <td style="text-align: right;">→ 40%</td> </tr> <tr> <td>・肺がん</td> <td style="text-align: right;">20%</td> <td style="text-align: right;">→ 30%</td> </tr> <tr> <td>・子宮頸がん</td> <td style="text-align: right;">21%</td> <td style="text-align: right;">→ 50%</td> </tr> <tr> <td>・乳がん</td> <td style="text-align: right;">27%</td> <td style="text-align: right;">→ 55%</td> </tr> </table>		H25	H31	がん検診受診率の向上			・胃がん		→ 10%	・大腸がん	22%	→ 40%	・肺がん	20%	→ 30%	・子宮頸がん	21%	→ 50%	・乳がん	27%	→ 55%
		H25	H31																				
がん検診受診率の向上																							
・胃がん		→ 10%																					
・大腸がん	22%	→ 40%																					
・肺がん	20%	→ 30%																					
・子宮頸がん	21%	→ 50%																					
・乳がん	27%	→ 55%																					
病態別（糖尿病・高血圧）保健指導	病態別健康教室 H26：3回 →H31：12回/年 受診勧奨対象者が医療にかかった割合 H27:96% → H31:100%																						
障がい者の 交流の場の整備	多世代交流の場の整備と活用 (障がい者の理解・交流を通じ障がい者が持つ可能性を発見)	交流施設の整備 1カ所(5年間) 活動回数(障がい者参加)：1回以上/月																					
障がい者の 暮らしの場の整備	地域生活支援拠点施設の整備 (障がい者の相談、体験の機会・場、緊急時の受入れ・対応)	拠点施設の数：1カ所(5年間)																					

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

I 健康づくり

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
障がい者の学びの場の整備	特別支援学校の整備(障がい者の教育機会・体制の充実)	特別支援学校の設置 1か所(5年間)
障がい者の働く場の整備	就労の場の確保(障がい者の就労支援体制の充実)	就労継続支援事業所の数 H28:1か所→H31:2か所
小豆島中央病院を核とした地域医療の充実	平成28年4月1日に開院した小豆島中央病院の健全な経営の実現を目指す。	両町の財政負担を国の繰出基準内に抑える。
	島みんなが自分たちの病院であるという気運を高めていくため、小豆島の地域医療を守り育てる島民運動を応援する。	島民会議の開催 年4回開催 累計参加者数 1,200人/年
	多職種が連携し、小豆島全体で医療・介護・福祉に取り組むための地域包括ケア連絡会を設立し、各部会ごとに町を越えて連携した活動を実施する。	平成28年7月13日設立

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

Ⅱ 子育て・人づくり

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)	
すくすく子育て 応援アクション プランの推進	子育てに関する情報発信	町ホームページの見直し、SNSの活用、子育てガイドブック配布を行い、わかりやすい情報を発信する。	小豆島町子育て共育課HPへのアクセス数 H27:180件/月→ H31:550件/月
	フレキシブル勤務の推進	保育士等資格保持者の都合のいい時間に勤務できるよう柔軟な雇用を行う。	公立保育所フレキシブル勤務者数 H27:1名→H31:2名
	男女共同参画の実現	プレママ・プレパパのマタニティ教室を開催する。	父親の参加割合 H26:10%→H31:30%
	出会いの輪創出事業	小豆島の人、自然、文化に触れながら共同作業を行うなど、出会いの場を提供し、婚姻へつなぐ。	婚姻数:4組(H20～H26の7年間) → 1組/年
	地域づくりプロジェクト	世代間交流の場を作ることにより、子育て世代の孤独感、不安感を解消する。 (旧JA草壁支店、遊児老館)	利用者数 H26:0人→H31:600人
	子育ての環境づくり	認定こども園の新設	待機児童ゼロを維持
	病児の通院サービス	出張や体調不良等の保護者に代わって病児・病後児を病児保育へ連れて行く。	利用者数 H26:0人→H31:延べ90人
	延長保育	通常の利用時間を越えて保育を実施する。	利用者数 H26:0人→ H31:50人
	地域子育て支援拠点事業	家庭保育する保護者が相互に交流できる場を提供する。	利用者数 H25:延べ5,285人→ H31:延べ7,715人

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

Ⅱ 子育て・人づくり

施 策		具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
すくすく子育て 応援アクション プランの推進	一時預かり事業	一時的に家庭での保育ができない乳幼児を預かる。	利用者数 H25:延べ1,909人→ H31:延べ2,185人
	放課後児童クラブ事業	昼間労働等で保護者が家庭にいない小学生を授業終了後や長期休業中に預かる。	利用者数 H25:64人→ H31:125人
	病児・病後児保育事業	病院等の専用スペースで看護師等が一時的に病児を預かる。	利用者数 H25:延べ517人→ H31:延べ693人
	ブックスタート	4か月児健診時に絵本を手渡し、保護者と絵本を開く楽しい体験を提供し、親子の愛情形成の手段とする。	ブックスタートバック提供率:100%(H29)→以後維持 町内に生まれたすべての乳児へのブックスタートバック提 供率100%を達成し以後継続する。健診欠席者へのフォ ローアップに努める。
幼・保、小、中、 高の連携	小豆島町学校教育研究会	校種間で情報共有を図るため、小豆島町学校教育研究会の充実を図る。 学力向上等講演会、運動能力講習会の継続開催 京大アメフト部との交流事業の実施	小豆島町学校教育研究会全体会 2回/年 学力向上講演会 1回/年 運動能力講習会1回/年

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

II 子育て・人づくり

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)	
学力向上	教育指導室の設置	学校指導訪問等の充実を図り、 授業改善の促進に努め 、基礎学力の定着 及び向上 を図る。 若年教員の資質向上、管理職の指導力向上、課題を抱える教員の指導力改善等、教職員のスキルアップを図る。	全国学力・学習状況調査において 小学6年(国語A、国語B、算数A、算数B、理科) H27:全教科で全国平均以上→H31:維持 中学3年(国語A、国語B、数学A、数学B、理科) H27:国語A、Bは全国平均以上 →H31:全教科で全国平均以上
	外国語活動支援員の配置	小・中学校に支援員を配置し、英語教育の充実を図る。	香川県学習状況調査の英語において H26:中学校1年県平均以下→H31:県平均以上
	情報教育 の充実	小・中学校にタブレットパソコンの導入、中学校のパソコン教室の再整備を行う。	主要教科において、タブレットを活用した授業を週1回以上実施
	町立図書館と連携した学校図書室の充実化	町立図書館に活動拠点とする専門的な学校司書を配置することにより、小中学校図書室の充実化を図り、図書室の利用増加、町立図書館の利用を促進し、生徒の読書量の向上につなげる。	学校への団体貸出数 H26:461冊 → H27:1,841冊 → H31:2,500冊
	読書通帳	銀行の通帳のように読書の履歴を可視化することにより「もっと読みたい」という意欲を高め、読書量の増加を図る。また、友達同士で通帳を見せ合うことにより、本を話題にしたコミュニケーションの活性化、教員や家族等とも読書通帳を媒体として、会話する機会の創出に繋げる。	年間平均記帳数:30冊を維持(通帳に50冊まで記帳可)

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

Ⅱ 子育て・人づくり

施 策		具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
運動能力向上	部活動強化補助金	中学校の部活動に対し、強化補助金を交付する。	四国・全国大会に継続して出場
	体力・競技力向上プログラム策定	具体的なプログラムに基づいたトレーニングを実施する。	新体力テストにおいて 【小学校：6年×男女×8種目＝96項目】 H26：県平均以上27項目→H31：48項目
	運動能力向上事業	運動能力向上講習会、トレーニング講習会、幼稚園での運動教室、池田学童等での運動教室を継続実施する。	【中学校：3年×男女×8種目＝48項目】 H26：県平均以上31項目→H31：40項目
特別支援教育の充実		特別支援教育の充実に向けた体制を強化するため、幼、小、中学校に特別支援教育支援員を継続して配置する。また、支援員の資質向上を図るための研修会を実施する。	研修会開催数 1回／年→2回／年
		小豆地区特別支援学校について、設置が実現できるよう、県に対して積極的に働きかける。	平成30年度

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

Ⅱ 子育て・人づくり

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
ふるさと教育の推進	地域との連携、協力により、 身近な郷土の自然や文化、歴史、産業などのふるさと学習 の充実を図り、 郷土を愛する心を育てる。	全国学力・学習状況調査の質問紙調査において「地域との関わり」の「地域行事に参加している」 【小学校】 H27:国平均以上→H31:維持 【中学校】 H27:国平均以上→H31:維持
	学校支援ボランティアによる子ども見守り事業として、各小学校区ごとに、登下校時の見守りを行い、地域ぐるみで子どもを育てていく。	学校支援ボランティア登録人数 H26:91人→ H31: 120人
小豆島町奨学金	大学等への進学に対する経済的支援として、奨学金制度を維持し、返還免除制度を継続する。	貸付者のうち、免除対象者(町内居住、郡内就職) H25:8人→H31:10人以上
新しい教育のあり方を小豆島高校跡地を活用して実現	町としての意見を取りまとめるため、プロジェクトチームの設置も含めて、具体的な検討を進める。 「小豆地域の高校再編に伴う跡地利用方策検討会」内に設置された「小豆島高校跡地部会」において、最終的な検討結果を出す。	できるだけ早い時期に有効活用の方向性を決定し、事業計画を策定

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

Ⅱ 子育て・人づくり

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
「演劇」を活用したコミュニケーション能力の向上	中学校では、平田オリザ氏による演劇ワークショップを継続し、コミュニケーション教育を実践する。	全国学力・学習状況調査の質問紙調査において「家庭でのコミュニケーション等」の「学校での出来事について話をしている」 【小学校】 H27:国平均以下→H31:国平均以上 【中学校】 H27:国平均以下→H31:国平均以上
	小学校では、四国学院西村先生と連携して、わたなべなおこさんによる演劇ワークショップを開催し、コミュニケーション教育を実践する。	
	これまでに実施してきた「青年団」や「ままごと」による公演を計画的に行い、演劇を鑑賞する機会を提供する。	
	瀬戸・高松広域定住自立圏の取組として実施している「文化芸術鑑賞事業」を活用し、劇団「四季」の演劇を鑑賞する機会を提供する。	
「アート」を活用したコミュニケーション能力の向上	瀬戸芸2016において、児童・生徒に作品を観る機会を確保する。 瀬戸芸作家等によるワークショップを開催する。 (例:清水久和氏の愛のバッドデザイン等)	「自尊意識」の「自分によいところがある」 【小学校】 H27:国平均以上→H31:維持 【中学校】 H27:国平均以下→H31:国平均以上
	荒井良二氏がオリーブ公園で実施しているワークショップについて、小・中学生の積極的な参加を促すとともに、各小学校の授業での展開について検討する。	
「音楽」を活用したコミュニケーション能力の向上	瀬戸芸2016において、音楽コンサートの開催について、検討する。	
	「文化芸術による子供の育成事業」を活用し、文化芸術を鑑賞する機会を確保する。 H26年度3校(オーケストラ、児童劇、ミュージカル) H27年度4校(バレエ2校、邦楽、演劇)	

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

Ⅱ 子育て・人づくり

施 策		具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
いきいきプラン～男女共同参画基本計画～の推進	さまざまな分野での男女の意識づくり	男女共同参画の必要性を認識し、理解を深めるような啓発活動	男女共同参画講演会に参加した男性の割合 H28：49.5% → H31:維持
	男女があらゆる分野に参画できる環境づくり	政策・方針決定過程への女性の参画推進	審議会における女性委員の登用率 H28：18.9% → H31：23.0%
		女性の社会参画の推進及び男性の家事・育児・介護への参加促進	託児ボランティア登録者数 H28：0人 → H31：20人
	一人ひとりが人権を尊重しあえるまちづくり	誰もが人権尊重の精神をもつための教育・啓発活動	人権啓発に関する講座・講演会・研修会等の開催回数 H28：6回/年 → H31：8回/年

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

Ⅲ 産業づくり

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
産業振興による地域経済の活性化	地域経済の循環を高めるため、商工会の活性化を図る。	商工業振興条例の抜本的な見直し(平成28年度中) 商工会の機能強化(組織体制、情報共有) 定例会回数:1回程度/月
	基幹産業が抱える数多くの課題を解決するため、地場産業活性化セミナーや地場産業座談会(異業種交流含む)の実施による相談支援の充実を図る。	地場産業活性化セミナー回数:3回程度/年 地場産業座談会回数:3回程度/年
	基幹産業が抱える技術的な課題を解決するため、地域振興アドバイザーの企業訪問による情報提供や解決に向けた専門的アドバイスを実施	企業訪問回数:10社程度/年
	かがわ産業支援財団ファンド事業を支援するため、商品の販路拡大に向けた国内展示会出展補助事業の活用を図る。(採択企業に対する旅費1/2の支給)	採択企業:5社程度
	新しい産業づくり条例に基づく既存企業の規模拡大を図るため、固定(償却)資産の減免措置と起業家支援を行い、地域経済の発展と雇用機会の拡大を図る。	既存企業減免措置:4件→新規1件/年 起業家支援:0件→新規1件/年
	空き家を活用したサテライトオフィスの促進と店舗併用型住宅の活用 【再掲】	新規起業件数:0件→3件/年 ※再掲
	空き倉庫等を活かし、民間事業者と地域との協働により農産物、海産物の加工や商品開発、生産者との交流事業等を通じた集落再生事業を展開	交流拠点での雇用者数 H28:0人→ H31:10人

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

Ⅲ 産業づくり

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
産業振興による地域経済の活性化	小豆島の特産品に関する情報発信とPRのため、町内企業数社が展示できるブースを確保し、小豆島の認知度アップを図る。(小豆島地場産業PR事業)	スーパーマーケット・トレードショーの小豆島ブースの拡大 H26:6ブース→ H31:10ブース
	離島活性化交付金を活用した「地場産業競争力強化物流支援事業」による戦略産品(醤油、佃煮)の海上輸送費部分の一部支援	助成申請企業:25社程度/年 ※平成28年度で3か年事業終了
	経営支援体制の一層強化のため、よろず支援拠点小豆島サテライトの活用を図る。	毎月第3火曜日→最大4社/日の予約を埋める。
観光振興による地域の活性化	<交流人口の拡大>【再掲】 小豆島の豊かな地域資源を活かした効果的な観光PRや小豆島観光協会におけるホームページ「小豆島旅ナビ」の多言語化を実施し、国内外からの新たな観光客やリピーターの獲得を図る。	【観光客入込客数】※再掲 H26:1,053千人→ H31:1,158千人(10%増)
	<国際交流・情報発信設備等の整備>【再掲】 外国人観光客に対応するため、国際交流アドバイザーらによる外国人対応スタッフの育成情報入手、移動手段に欠かせないWi-Fi設備を増設し、来訪者の利便性向上を図る。	【外国人宿泊客数】 H28: 36,151人 → H31: 50,000人 ※再掲 【Wi-Fi設置数】 H27:31箇所 → H28:35箇所 → H31:45箇所 (H29:寒霞渓山頂に整備) ※再掲

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

IV 1次産業の再生と復権

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
オリーブの普及推進	原点に立ち返った栽培検証	オリーブ果実収分量(小豆郡内) H29:323t → H31:391t
	小豆島産オリーブオイル等の高品質化とブランド力の強化、後継者の育成、産地保護を図る。	オリーブの栽培面積 H26:98ha→ H31:110ha
	小豆島オリーブ公園の魅力向上	オリーブ公園来訪者数 H26:33万人→H31:40万人
	東京オリンピック・パラリンピックでのオリーブ冠贈呈活動の一環として冠ワークショップの開催	参加人数 H29:60人→ H31:120人
	オリーブオイルの摂取とサン・オリーブのトレーニング機器の利用との相乗効果で健康を目指す。	人数 H29:20人→ H31:60人
	モデル園地での人材育成	延人数 H29:1人→ H31:3人
	オリーブを用いた健康長寿の島づくりの推進では、公民館を媒介として各種教室・講座等を実施。生活の中にオリーブを取り入れることにより、食生活の充実、健康、美容の促進を図る。	教室開講数 H28:59回 → H31:65回
棚田の保全活動	棚田公社の設立	対象面積 H26 11.8ha 766枚 公社化の推進 ※現構成員(関係農業者数) 43名
	景観保全(遊休田の管理)	保全が必要な面積 H26:3.3ha→H312.8ha(0.5ha復田)
	遊休田の復活(オーナー制度、香大ボランティア、酒米造り等)	管理面積 H26:0.63ha → H31:1.5ha
農業の基盤整備	池田地区中山間総合整備事業(池田畑かん施設の全面改修等)	平成28年度実施計画策定 平成30年度事業着手
新規就農者への支援	農地取得に係る面積要件の緩和(就農条件の緩和)	取得に掛る下限面積5aの維持
	就農相談・支援(農業次世代人材投資事業(旧;青年就農給付金制度)の活用等)	新規就農者 22名(移住 9名) → 35名(15名) 給付金対象農家 H26:1戸 → H31:5戸

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

IV 1次産業の再生と復権

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
豊かな里海再生事業	産官学民による里海の再生への研究【再掲】	アサリの養殖試験 H28 底質等の環境調査※再掲 藻場再生モデル事業の実施 1地区(5年間) 未
環境保全	水産資源の育生【再掲】	稚魚放流(漁協) ※再掲 H26 5000尾/年 → H31 延べ 25,000尾 稚魚放流(町単) ※再掲 H28 50,000尾 → H31 延べ 125,000尾 養殖海苔の栄養塩の添加試験の継続支援
食の流通改革モデル事業	獲る漁業から、新しい冷凍保存技術による地元水産物の流通改革	CASシステム等による流通改革の検討
遊休地農地対策	農地の貸し借り制度の周知、推進(香川県農地機構との協調)	実績面積 H26:78.2ha → H31:88.0ha ※法人による借入希望面積 約9.0ha
	耕作放棄地再生事業の推進	再生面積 H26:4.4ha → H31:8.0ha
認定農業者・集落営農組織への支援	認定農業者及び集落営農組織への各種補助事業の活用 (遊休農地の貸付推進)	認定農業者 31名(うち法人8)→40名(法人10) 集落営農組織 1組織 → H31:3組織
小豆島ふるさと村・将来ビジョンの策定	農業の再生を柱にビジョンの策定に向けて検討する。	平成29年度策定

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

V 文化・アート総合戦略

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
瀬戸内国際芸術祭2016の取り組み	≪交流人口の拡大≫ 芸術祭を契機に島民とアーティストやクリエイターまた、国内外からの来場者等との交流を通じて、幅広い層の誘客を図り、交流人口の拡大を図る。	【観光客入込客数】 ※再掲 H26:1,053千人→ H31:1,158千人(10%増)
	≪移住・定住の促進≫ 【再掲】 小豆島の魅力を国内外に幅広く発信することにより、移住者の増加、地域住民の絆の深化に繋げる。また、郷土への愛着を育むことで、将来の島の担う人づくりに寄与する。	【移住者数】 年間100人を維持 【定住者数】 上記のうち、年間50人を維持
	≪国際交流・情報発信設備等の整備≫ 【再掲】 外国人観光客に対応するため、 国際交流 アドバイザーらによる外国人対応スタッフの育成情報入手、移動手段に欠かせないWi-Fi設備を増設し、来訪者の利便性向上を図る。	【外国人宿泊客数】 ※再掲 H28: 36,151人 → H31: 50,000人 【Wi-Fi設置数】※再掲H27::31箇所→H31:45箇所 (H29:寒霞渓山頂に整備) ※再掲
	≪食文化の提供≫ 瀬戸内海の豊富な地域資源を活かした食の提供を通じて、島の魅力を発信し、新しい瀬戸内海の食文化を創る。	【新規店舗設置数】 1店舗(5年間)
	三都半島アートプロジェクト	瀬戸芸2019 (H31) に向けて、広島市立大学と連携し、継続的なアート活動を展開する。 ※H29:瀬戸芸参加作家7人+新規作家数人(未定)による展示会を9月中旬に開催予定
	福武ハウス ―アジア・アート・プラットフォーム構想の実現―	アジア各国と福田の草の根的なつながりと交流 瀬戸芸2013:7地域→瀬戸芸2016:6地域 → 瀬戸芸2019:8地域

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

V 文化・アート総合戦略

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
壺井栄・黒島伝治・壺井繁治 再発見プロジェクト	壺井栄50回忌記念事業 壺井繁治と栄の書簡集編纂事業	214通の書簡集を平成28年度中に作成
	壺井栄50回忌記念事業 壺井栄原作映画上映会	上映回数：3日程度／年 観客動員数：500人／年
	壺井栄50回忌記念事業 壺井栄年譜「壺井栄50年の履」作成	平成29年度までに作成
	小中学校、高校への郷土作家の普及 <ul style="list-style-type: none"> ■ 壺井栄・黒島伝治・壺井繁治作品朗読 ■ 「二十四の瞳」DVDの小・中学校への配布 	朗読会実施回数：各学校3回程度／年 → 再検討 町内小・中学校視聴率：100%

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

V 文化・アート総合戦略

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
文化財の保護と活用	古文書等調査保存事業 町が保存する約6,000点の古文書の保存・記録と有効活用	平成30年度までに町が保存する古文書を整理
	日本遺産認定への取り組み	再度島の持つ魅力について様々な角度から検証する。
	小豆島農村歌舞伎調査事業	平成31年度までに作成 国の助成金等の関係で、事業年度が1年延びることとなった。
	小豆島遺産保存継承事業	文化・歴史等を主な目的とした観光入込客数 H28:311千人→H31:330千人 町指定・登録等文化財件数 H28:72件→H31:80件
	指定文化財保存活動 説明看板の設置、広報による周知	指定文化財の説明看板を 平成33年度 までに作成

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

V 文化・アート総合戦略

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
東瀬戸内文化圏の「世界遺産化」に向けた取り組み	<p>《石の文化の力を活かした地域の輪の創造》</p> <p>◆住民、大学、NPO法人、産業界、行政が一緒になって、石の調査と啓発活動を進め、文化の力によって地域の元気を創る。</p> <p>◆東瀬戸内をひとつの文化圏としてとらえ、大阪市などさまざまな地域との連携・交流を進める。</p>	<p>【石切丁場等の調査と啓発活動への参加者】</p> <p>住民 30人→100人 大学 5大学→10大学 NPO法人 1法人→2法人</p> <p>【世界遺産化に向けた地域連携】</p> <p>小豆島町単体→大阪市を中心に5自治体</p>
	<p>《古来より育まれてきた人びとの”知恵”と”技術”の継承》</p> <p>◆石を割り、積み上げる”知恵”と”技術”に磨きをかけ、城郭や神社仏閣など、日本の文化遺産を守り伝える役割を担っていく。</p> <p>◆棚田や栈敷、河原など人びとの癒しと安らぎになっている、日本の美しい風景や文化を守り伝える役割を担っていく。</p>	<p>【知恵と技術を有する石工の養成】</p> <p>石工 1人→5人</p> <p>【文化財石垣保存技術協議会の指導者を養成】</p> <p>H28:1人→H31:3人</p>
	<p>《人びとの暮らしを支え、安心な社会をつくる防災対策への応用》</p> <p>◆東日本大震災の復興を縁の下で支えている小豆島の石と船。南海トラフ地震に備え、人びとの暮らしを守る石材産業を継承。</p> <p>◆自然災害の初期救助活動の迅速化を目指すため、手で石を割り動かす”知恵”と”技術”の研究と画一化を推進。</p>	<p>【石材産業の継承】</p> <p>12社→12社 【大学等研究機関と連携した知と技術の確立】</p> <p>学会での発表 0件→5年間で10件</p>
	<p>《文化遺産の活用による交流人口の拡大とふるさと学習》</p> <p>◆江戸、大坂城と小豆島の石切丁場をルートでつなぐ旅プランの商品化や海中遺跡のスキューバ体験などで交流人口を拡大</p> <p>◆石切丁場の体験学習などを通じて歴史や文化の大切さを伝え、ふるさとを愛する心を育てながら、次の世代へとつなげていく。</p>	<p>【石切丁場等への来訪者数】</p> <p>5,000人→10,000人</p> <p>【ふるさと学習の実施校数】</p> <p>小学校1 中学校1 → 全小中学校で実施</p>

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

VI 交通の復権

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
小豆島地域公共交通網形成計画の作成	持続可能な公共交通の維持・確保のため小豆島地域公共交通網形成計画を策定	平成27年度に計画を策定
オーリーブスの利用促進	平成28年3月20日から上限運賃300円、路線・ダイヤの再編など、小豆島の公共交通体系を大幅に見直した。以降、病院通院者や瀬戸内国際芸術祭などの観光客等により、利用者は順調に推移している。今後、平成29年4月開校の小豆島中央高校にバスで通学する生徒の定期券購入に係る助成制度を創設し、更なる利用者の確保を図る。	オーリーブスの利用者数(H24の1.7倍) H24:344千人 → H31:585千人
	ノーマイカーデーの普及促進や自家用車や自転車とバスの連携といったパークアンドライドの推進に努める。	池田地区(小豆島中央病院)における平均乗降人数 H26:2,000人/月 → H31:5,000人/月 高校通学における定期券購入者の割合 H26:1.6% → H31:15%
オーリーブruCaの普及促進	公共交通の利便性向上のため、オーリーブruCaの普及促進を行う。	オーリーブruCa発行枚数 H26:3,231枚 → H31:4,500枚
海上交通の振興	道路と同等のインフラ施策の実現のため、国への働きかけを強化するとともに、各種振興イベントを開催し航路の活性化を図る。	小豆島町の航路の1日あたりの就航便数 H27～H31:34便を維持
航路インフラの整備	利用者の利便性向上のため、港湾施設の整備を推進し、快適な航路づくりに努める。	小豆島町の航路の1日あたりの就航便数 H27～H31:34便を維持
道路インフラの整備	狭隘な町道の拡幅や橋梁の長寿命化など、道路等の整備を推進し、快適な道路づくりに努める。	年間交通事故件数の減少 H26:57件 → H31:30件

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

VI 交通の復権

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
道の駅、海の駅の機能強化	地域の実情を反映し、道の駅、海の駅の機能の充実・強化を図る。 (小豆島オリーブ公園・小豆島ふるさと村)	道の駅、海の駅の利用者数 H26:47万人 → H31:52万人
交通弱者の移動手段の確保	路線バス等の公共交通機関の利用が困難な重度障害者等に対する自家用車による移動支援サービス(福祉有償運送)を実施する。	サービスの実施にあたっては、利用者のニーズの把握と民間事業者の供給体制を総合的に判断し、実施の時期を検討する。 (利用登録者数 H31:20名)
	路線バス等の公共交通機関の利用が困難な在宅で生活する町民税非課税の重度障害者等に対して、タクシーチケットの助成を実施する。	H29年度事業開始
電気自動車の普及促進	環境にやさしい電気自動車の普及促進のため、電気自動車を公用車に採用するとともに、充電インフラの整備を進める。	充電設備設置個所 H26:12か所 → H31:15か所

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

Ⅶ 自然・環境

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
瀬戸内海・小豆島の自然を学び、守り、次の世代につなげる取組みを推進	小中学校や公民館などでの自然学習の推進	自然学習実施回数 各学校 1回／年以上
	名勝や記念物などの説明板や案内板の整備	寒霞渓入込客数 H26:280千人→H31:308千人(10%増)
	讃岐ジオパーク構想への参加と協力	香川大学が開催するシンポジウムへ毎年度参加
	島内外の住民、企業の参画による寒霞渓などの保存活動の推進	企業団体等による寒霞渓年間植樹数 1,000本(5年間)
産官学民による環境の再生・活用を推進	産官学民連携による里海、里山再生の研究【再掲】	アサリの養殖試験 【再掲】 藻場再生モデル事業の実施 1地区(5年間)
	水産資源の再生【再掲】	稚魚放流(漁協) ※再掲 H26:5000尾/年 → H31:延べ 25,000尾 稚魚放流(町単) ※再掲 → H31:延べ 125,000尾 養殖海苔の栄養塩の添加試験の継続支援 ※再掲 ※漁業組合員数の維持(H26組合員数:218人)
	老朽危険建物の除却推進	空き家の除却件数: 100件 (5年間) H27:18件 → H31:100件
	空き地の活用によるポケットパークの整備	ポケットパークの整備:3ヶ所(5年間)

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

Ⅶ 自然・環境

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
快適な生活環境づくりに向けたごみ問題の取り組み	ごみの排出抑制や再生量の推進	1人1日あたりのごみ排出量 H25:1600g/人・日 → H31:1,516g/人・日
	合併処理浄化槽の整備促進	生活排水処理率 H26:43.3% → H31:52.6%
	一般廃棄物埋立処分地の整備	新しい埋立処分地の整備を推進し、 平成34年に供用を開始

総合戦略の施策と重要業績評価指標(KPI) 2015年度～2019年度

VIII 国際交流・移住者

施 策	具 体 的 な 施 策 の 内 容	重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)
国際交流の推進	<p>≪瀬戸内国際芸術祭2016の取り組み≫【再掲】 芸術祭を契機に島民とアーティストやクリエイターまた、国内外からの来場者等との交流を通じて、幅広い層の誘客を図り、交流人口の拡大を図る。</p>	<p>【観光客入込客数】※再掲 H26:1,053千人 → H31:1,158千人(10%増)</p>
	<p>≪国際交流・情報発信設備等の整備≫【再掲】 外国人観光客に対応するため、国際交流アドバイザーらによる外国人対応スタッフの育成情報入手、移動手段に欠かせないWi-Fi設備を増設し、来訪者の利便性向上を図る。</p>	<p>【外国人宿泊客数】※再掲 H28:36,151人 → H31:50,000人 【Wi-Fi設置数】※再掲 H27::31箇所→ H31:45箇所 (H29:寒霞渓山頂に整備) ※再掲</p>
	<p>福武ハウス →アジア・アート・プラットフォーム構想の実現【再掲】</p>	<p>アジア各国と福田の草の根的なつながりと交流 瀬戸芸2013:7地域 → 瀬戸芸2016:6地域 → 瀬戸芸2019:8地域</p>
移住・定住の促進	<p>小豆島の魅力を国内外に幅広く発信することにより、移住者の増加、地域住民の絆の深化に繋げる。また、郷土への愛着を育むことで、将来の島の担う人づくりに寄与する。【再掲】</p>	<p>【移住者数】 年間100人を維持 【定住者数】 上記のうち、年間50人を維持</p>
	<p>移住相談をはじめ、空き家バンクや移住体験施設の運用、首都圏でのPR活動等の町の移住施策の一部をNPOとの連携により、新たな移住・定住に向けた事業を展開する。</p>	<p>移住相談件数 H26:233件/年→H31:300件/年</p>
	<p>空き家等総合対策計画に基づく空き家等の有効活用に向けて、NPO法人との連携による各種モデル事業を展開し、更なる移住・定住の促進、交流人口の拡大を図る。</p>	<p>【体験移住施設の整備・運用】 3施設 【サテライトオフィスの促進】 3件 ※再掲</p>
	<p>空き家等実態調査に基づくデータベースを活用し、空き家バンクへの登録物件数を確保する。</p>	<p>年間新規登録件数 20件以上</p>